HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学術交流と知の発信の場の創出「書香の森」のご紹介
Author(s)	森岡, 和子; 澤田, 真理子
Description	RA協議会第8回年次大会 : リサーチ・アドミニストレーション機能の拡充による研究力強化への取り組み. 2022年8月30日(火)-8月31日(水). 主催：リサーチ・アドミニストレーション協議会. 仙台国際センター（対面＆Web配信ハイブリット開催）. 仙台
Issue Date	2022-08-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/96178
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/
Type	conference poster
File Information	2022RA_P44.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学術交流と知の発信の場の創出「書香の森」のご紹介

「書香（しょこう）」とは

書物の香りをあらわす漢語。中国では、それを引伸して、学問の気風といった意味にも用いられてきました。たとえば「書香の家」というと、読書人・知識人の家を指します。

人文社会科学系研究の推進のため、
・これまで取り組んできたこと
・今後の可能性の開拓（若手・異分野）
について報告します。

「書香の森」とは

北海道大学文学研究院では、あまたの教員が**人文・社会科学各分野**の教育研究に従事していますが、その成果の多くは、書物の形で発表されます。そうした活動の一端を一所にまとめて展示するとともに、その空間を**学術交流と知の発信の場**とすべく、「書香の森」と命名しました。

書香の森の沿革

2008年10月	教員の研究活動成果をまとめて展示する空間を創成
2009年 5月	展示空間を知的発信源の象徴とすべく「書香の森」と命名
…	**著書展示**、展示ケースの**一般展示**の2種企画を実施継続
2013年 9月	改修、**美術作品展示コーナー**を新設、**作品企画展示**開始
2013年10月	書棚内で**特集図書展示**を始める
2014年 4月	**ウェブ版書香の森**オープン
2014年10月	**プラス1ピースの読書会**開始
2022年 3月	**大学院生による企画展示**開始
2022年 4月	書香の森企画ワーキンググループ発足
2022年 8月	企画展示と図書展示の**連動企画**開始

北海道大学大学院文学研究院 研究推進室　○森岡 和子・澤田 真理子

「書香の森」著書展示

書香の森蔵書データ

蔵書総数	助成図書				その他著書	報告書	図録	雑誌
	研究叢書	ライブラリ	楡文叢書	一般助成				
708	32	18	4	69	529	15	3	38

（2022年7月末現在）

助成図書

研究叢書　教員の学術図書（助成額150万円以内）
ライブラリ　教員の一般向け図書（助成額100万円以内）
楡文叢書　ポスドクの学術図書（助成額150万円以内）
一般助成　教員の学術・一般図書（助成額50万円以内）

URAの関わり

- 蔵書管理、整理、貸出用を図書館に登録
  隣接研究分野、関連分野を意識した展示
- 新着図書、受賞図書の展示
- ウェブ・SNSと連動した著書の広報
- 特集図書展示企画、運営、広報
- 研究者への新著の寄贈・登録の呼びかけ

書籍展示の効果

- 約170名の著者（退職者含む）による研究成果を可視化
- 文学研究院の研究の多彩さを可視化
- 教員から2冊寄贈していただき、1冊は附属図書館に登録
  学生が書棚で見る → 図書館で借りるというルート形成
- 書物をなかだちとした対話の場の形成
- 隣接研究領域への関心を喚起

ウェブ版「書香の森」と連動した書籍紹介

ウェブ版制作のねらい

- 研究成果をより広く詳しくアウトリーチする。
- 書籍研究成果の検索性を高める（著者、カテゴリ）。
- 内容紹介にとどまらず、著者自身のコメントを掲載することで、研究者および研究の魅力を伝える。
- 書籍関連イベント、出版後の反響、外部リンク等、著書に関する情報をトータルデザインし、更新していく。

ウェブ書香の森蔵書データ

登録総数	助成図書				その他著書
	研究叢書	ライブラリ	楡文叢書	一般助成	
282	32	18	4	55	173

（2022年7月末現在）

URAの関わり

- 著者に登録シート記入依頼
- 登録シートの内容をウェブ版に反映
- 教員ウェブページ業績欄に書籍名とリンクを追加
- ウェブ版情報をSNSにて発信

特集図書展示開催

特集図書展示のねらい

- テーマを決めて展示を行うことで当該研究分野の深掘りができる。
- テーマが共通であっても、手法や分野による違いを知り比較できる「宗教」をテーマにした展示では5つの研究分野からの著書を展示。
- 新刊以外の著書も表紙を見せて展示できるので、書香の森蔵書の再発見につながる。
- 同じ特集で取り上げた研究者同士が関心を持ち合い、将来的な研究交流につなげていきたい。
- 新任教員の業績紹介として機能。

URAの関わり

- 展示テーマの決定
- 著者に企画提案、選書協力
- 著者に紹介カード原稿を依頼
- 紹介カードを作成
- 書籍展示を実施
- ウェブサイト、SNSで広報
- 書香の森蔵書以外の著書を展示の場合は、寄贈・登録依頼

2013年以降の特集図書展示一覧→

No.	展示テーマ	展示概要	展示期間
1	文学研究科 出版助成図書2012	2012年度に文学研究科の助成を受けて出版された書籍を紹介	2013年10月～2014年2月
2	山岸俊男 名誉教授（2013年度 文化功労者）の著作	2013年度の文化功労者の山岸俊男名誉教授の著作の一部を紹介	2013年10月～2014年2月
3	受賞対象図書	2013年度に学会賞等の受賞対象となった教員著書を紹介	2014年2月～2014年3月
4	文学研究科 出版助成図書2013	2013年度に文学研究科の助成を受けて出版された書籍を紹介	2014年4月～2015年3月
5	文学研究科 出版助成図書2014	2014年度に文学研究科の助成を受けて出版された書籍を紹介	2015年4月～2016年4月
6	文学研究科 出版助成図書2015	2015年度に文学研究科の助成を受けて出版された書籍を紹介	2016年4月～2016年9月
7	「プラス1ピースの読書会」で取り上げた図書	「プラス1ピースの読書会」で取り上げた図書と、読書会のようすのダイジェストを展示	2016年10月～2017年3月
8	文学研究科 出版助成図書2016	2016年度に文学研究科の助成を受けて出版された書籍を紹介	2017年4月～2017年8月
9	文学研究科 アートな著作	アート・芸術に関する著書のほか、カタログや雑誌を展示（札幌国際芸術祭連動企画）	2017年8月～2017年10月
10	「宗教」を読む	「宗教」をテーマとした教員著作を展示、5講座の教員著書を展示、札幌国際芸術祭期間に実施	2017年10月～2017年12月
11	読書 DE 世界めぐり	本のタイトルまたはサブタイトルに海外の国名が入っている書籍を特集	2018年1月～2018年3月
12	文学研究科 出版助成図書2017	2017年度に文学研究科の助成を受けて出版された書籍を紹介	2018年4月～2018年8月
13	「こころ」を読みとく	人の心や感情、心理学に関する教員著作を取り上げ紹介	2018年8月～2018年12月
14	「文化」ってなんだろう？	タイトルに「文化」をもつ書籍を集め、さまざまな観点から「文化」について考える企画	2018年12月～2019年4月
15	文学研究科 出版助成図書2018	2018年度に文学研究科の助成を受けて出版された書籍を紹介	2019年4月～2019年8月
16	夏本番！フィールドワーク特集	文学研究院教員が執筆したフィールドワークに関係する書籍を紹介	2019年8月～2019年10月
17	文学院 新メンバーの著書紹介	2019年度4月から新たに文学院・文学研究院のメンバーに加わった教員の著書を紹介	2019年10月～2020年1月
18	北大人文学カフェとともに	2016年以降の人文学カフェの話し手教員の関連著書をフライヤーとともに紹介	2020年1月～2020年4月
19	文学研究院 出版助成図書2019	2019年度に文学研究院の助成を受けて出版された書籍を紹介	2020年4月～2020年8月
20	読んで知る博物館 ＝博物館学研究室教員著書＝	博物館学研究室教員の著書を紹介	2020年8月～2020年12月
21	文学院 新メンバーの著書紹介	2020年4月から新たに文学院・文学研究院のメンバーに加わった教員の著書を紹介	2020年12月～2021年4月
22	文学研究院 出版助成図書2020	2020年度に文学研究院の助成を受けて出版された書籍を紹介	2021年4月～2021年8月
23	文学院 新メンバーの著書紹介	2020年9月以降に、文学院・文学研究院のメンバーに加わった教員の著書を紹介	2021年8月～2021年12月
24	映像・現代文化論研究室 教員著書	映像・現代文化論研究室の教員著書を紹介、所属教員がセレクトした1冊を紹介	2021年12月～2022年4月
25	文学研究院 出版助成図書2021	2021年度に文学研究院の助成を受けて出版された書籍を紹介	2022年4月～2022年8月
26	ゲーム本を攻略せよ（寺農織苑選書）	企画展示「ゲーム展示を攻略せよ」連動企画 ゲーム展示研究の院生によるゲーム関連本展示	2022年8月～2022年10月

プラス1ピースの読書会

2021年以降はオンライン版を公開*

プラス1ピースの読書会とは

- 研究者が自著を紹介するイベント
- 執筆時のエピソード、研究上の位置づけ、出版後の反響など、書評やインターネット上では読めない話を提供
- 一見つながりな見えない「プラス1ピース」のキーワードは聞いて納得のサプライズ！
- 既読者は新たな気づきが得られる、未読者は話を聞いて読みたくなる、著者も振り返りを通じて新たな研究アイデアを得ることを目指します。

URAの関わり

- 取り上げる書籍を選ぶ
- 著者に企画提案、著者インタビュー
- プラス1ピースの決定
- 書評探索、チラシ作成
- トーク構成案作成、著者と調整
- イベント広報、小道具制作
- イベント実施
  ／トーク収録・動画編集・公開*
- イベント実施報告
  ／動画公開後広報*

Vol.	本のタイトル	著者等	プラス1ピース	開催日
1	換喩詩学	阿部 嘉昭	ツイッター	2014.10.27
2	秘宝館という文化装置	妙木 忍	職人魂	2014.11.11
3	GISと地理空間情報	橋本 雄一	ガンダム	2015.07.08
4	謎とき「ハックルベリー・フィンの冒険」	竹内 康浩	ルビンの杯	2015.12.08
5	現象学という思考	田口 茂	武田 鉄矢	2016.06.17
6	シベリア先住民の食卓	永山 ゆかり	お名前鑑定団	2016.07.28
7	文化進化論・協力する種	竹澤 正哲	園芸棚	2017.07.24
8	循環する世界ー山城 知佳子の芸術	浅沼 敬子	泡	2017.09.27
9	信の哲学	千葉 惠	茨戸川	2018.05.15
10	ふたつの憲法と日本人	川口 暁弘	赤プリ	2018.10.22
11	堀田善衞　乱世を生きる	水溜 真由美	ジブリ	2019.06.27
12	言語学講義 ― その起源と未来	加藤 重広	広場	2019.10.24
13	実践　自分で調べる技術【動画版】	宮内 泰介	レーダーチャート	2021.04.05～
14	学芸員がミュージアムを変える！ 公共文化施設の地域力【動画版】	今村 信隆 佐々木 亨	のりしろ のびしろ	2021.11.02～

↑プラス1ピースの読書会実施一覧

コロナ禍以降、対面イベントが実施できず、オンライン版にて継続実施中。双方向型のコミュニケーションは難しいが、学外の方、お昼休みに時間を取れない方に対して、長期間にわたり視聴していただけるメリットも

作品等企画展示（改修後）

2010年4月～2013年10月の期間、14回にわたり、改修前の書香の森にて、研究室持ち回りで企画展示を実施。

この間の展示内容は、書籍展示が8回、研究資料・史料展示が6回

2013年改修で美術作品展示ケースを設置。以後の展示を紹介

展示の経緯

- 北大に所蔵されている美術作品の悉皆調査成果を展示（第1回～第18回）
- 第19回以降、美術作品以外の研究成果の展示も始める。作品展示にとどまらず、広く研究成果のアウトリーチの場としての役割を果たす
- 教員の研究成果発表の場から大学院生の研究進捗報告の場、異分野研究者の協働の場へ

URAの関わり

- 第18回までは、研究者が企画、URAは広報を担当
- 第19回以降は、研究者との共同企画、広報
- 第24回から大学院生企画を始めるにあたり、部局全体のアウトリーチの場としてオーソライズするために企画ワーキンググループ立ち上げ、複数分野の研究者による協働企画を調整

No.	タイトル	企画担当	内容	展示時期
1	北海道大学所蔵美術作品悉皆調査報告 『美術の北大』「近藤七郎とその作品」	芸術学講座	近藤七郎作«風景画（北大ポプラ並木）» «風景画（街なみ）»	2013年9月～ 2013年12月
2	『美術の北大』「中根孝治と田辺至の作品」	芸術学講座	中根孝治«第二農場» 田辺至«札幌農科大學附属農場写生»	2014年1月～ 2014年3月
3	『美術の北大』「小野垣哲之助の作品」	芸術学講座	小野垣 哲之助作《北大工学部風景》《吉町先生像》疋田 豊治撮影「白亜館」	2014年4月～ 2014年7月
4	『美術の北大』「舘英雄の作品」	芸術学講座	舘 英雄作《北大銀杏並木》『詩のある風景－舘英雄画文集 』『青春の軌跡』	2014年8月～ 2014年12月
5	『美術の北大』「サイロの雪冠り」	芸術学講座	新穂栄蔵作「サイロの雪冠り」『サイロ博物館』『ストーブ博物館』他	2014年12月～ 2015年4月
6	『美術の北大』《枯れ木》《街》	芸術学講座	小川原脩《枯れ木》、小川原脩《街》	2015年4月～ 2015年8月
7	『美術の北大』「大本 靖の作品」 （夏期・冬期）	芸術学講座	「冬の北大構内」「冬のポプラ並木」 「白壁の建物」「植物園」他	2015年8月～ 2015年12月
8	『美術の北大』冬の第二農場	芸術学講座	池田芳郎《冬の第二農場》	2015年12月～ 2016年4月
9	『美術の北大』芽吹く新緑のニレ	芸術学講座	富樫 正雄《芽吹く新緑のニレ》	2016年4月～ 2016年8月
10	『美術の北大』北海道大学古河記念講堂	芸術学講座	八鍬 利郎《北海道大学古河記念講堂》	2016年8月～ 2016年11月
11	『美術の北大』早春の大雪山	芸術学講座	村田 丹下《早春の大雪山》	2016年11月～ 2017年3月
12	『美術の北大』STEADY GAZE(B)	芸術学講座	斎藤 清《STEADY GAZE(B)》	2017年4月～ 2017年7月
13	『美術の北大』《夏のレモン》	芸術学講座	Mario Avati《夏のレモン》	2017.07月～ 2017年11月
14	『美術の北大』《初冬の日高連峰》	芸術学講座	坂本 直行《初冬の日高連峰》	2017年12月～ 2018年3月
15	『美術の北大』杉山留美子の作品	芸術学講座	杉山留美子「光の絵画」	2018年4月～ 2019年3月
16	『美術の北大』大本 靖 ―書票の世界―	芸術学研究室	大本 靖「書票展示」、絵画展示	2019年4月～ 2019年7月
17	『美術の北大』クスミエリカ「わが町」	芸術学研究室	クスミエリカ「わが町」写真コラージュ作品、関連書籍等展示	2019.11月～ 2020年3月
18	『美術の北大』柿﨑照「角楼」	芸術学研究室	柿﨑照「角楼」、〈林縁から〉関連図録、解説文展示	2020年4月～ 2020年7月
19	学芸員リカレント教育プログラム 完了報告 ミニパネル展	学芸員リカレント教育プログラム	2018～2020年度に実施されたプログラムをパネル展として振り返る企画	2021年4月～ 2021年8月
20	「縫い継がれた記憶 ― 進藤冬華展」〈第1期〉 ふたりでつくる、日々のかたち	芸術学研究室 博物館学研究室	札幌を拠点として活動する進藤冬華氏の作品のシリーズ展示	2021年9月～ 2021年10月
21	「縫い継がれた記憶 ― 進藤冬華展」〈第2期〉 つらなりのステッチ　交差の場としての地域	芸術学研究室 博物館学研究室	札幌を拠点として活動する進藤冬華氏の作品のシリーズ展示	2021年10月～ 2021年11月
22	「縫い継がれた記憶 ― 進藤冬華展」〈第3期〉 体験のためのレプリカ 再現によって過去とつながる	芸術学研究室 博物館学研究室	札幌を拠点として活動する進藤冬華氏の作品のシリーズ展示	2021年12月～ 2022年1月
23	「縫い継がれた記憶 ― 進藤冬華展」〈第4期〉 ふたりで縫う ―土地の記憶と向き合う ―	芸術学研究室 博物館学研究室	札幌を拠点として活動する進藤冬華氏の作品のシリーズ展示	2022年1月～ 2022年2月
24	開講、木彫り熊概論！	博物館学研究室 (大学院生企画)	博物館学研究室の修士論文研究をもとに研究室の大学院生を中心に企画	2022年3月～ 2022年7月
25	ゲーム展示を攻略せよ	博物館学研究室 (大学院生企画)	博物館学研究室の博士論文研究をもとに研究室の大学院生を中心に企画	2022年7月～ 2022年10月

新たな試み（若手研究者・異分野連携）

若手研究者アウトリーチの場

- 第24回「開講、木彫り熊概論！」大学院生の修士論文研究をもとに博物館学研究室で企画したもの。企画、展示デザイン、ポスター等印刷デザインは院生たちが協力して実施
- 第25回「ゲーム展示を攻略せよ」博物館学研究室院生の博士1年次の研究成果をもとに企画したもの
- まとまった研究成果だけでなく、研究の進捗報告のような目的でも若手研究者のアウトリーチの場として機能している

異分野連携の場

- 第26回は、異なる研究室の院生が協働して展示をつくる予定。文化人類学+社会生態学+博物館学
- 今後、地域社会学、日本史学などの分野も参画の可能性あり
- 若手研究者のうちから、異分野の研究に触れ、異分野研究者とネットワークを形成することで、研究の幅や視野を広げることができる。
- 別の研究室の院生と顔をあわせて直接交流する貴重な機会となる。

URAの関わり(連動企画)

- 複数の研究室や大学院生が関わる企画に拡大したため、企画展示を部局全体のアウトリーチの場として位置づけ、展示の主催者を研究室から文学研究院とした
- 複数の研究室教員がメンバーとなる企画ワーキンググループの立上げを提案、研究教育の実践紹介の場として企画公募、運営のサポートを行う
- 企画展示と特集図書展示との連動企画を提案、現在ゲーム機・ゲームソフト・ゲーム本の連動展示開催中

まとめ

場の創出とURA

・学術交流の場をつくるだけでは不十分。URAはリアル空間とサイバー空間の両面から、交流を後押しし、発信を活性化する仕掛けが求められる。

・企画提案、運用は、研究者の協力が必要。URAは関わる人たちが円滑にコミュニケーションできるように、調整力が求められる。

・場の活用効果について評価し改善に向けた提案力が求められる。提案は、新たな研究成果や活動の呼び水となることが望ましい。

書香の森の波及効果

メディアによる取材

北海道新聞による取材
学内メディア「いいね！Hokudai」

出版企画

木彫り熊展をウェブサイトで見た出版社の編集担当者から書籍出版企画の提案

地域・全学連携企画

2017年の札幌国際芸術祭の開催期間に合わせて絵画展示と、アート関連書籍の特集展示を実施。この企画は全学企画「TERRACE ―科学とアートが出会う場所」とも連動して展開し、TERRACEのウェブサイト・報告書に掲載

外部資金獲得の契機に

TERRACEと連携することでできた人的ネットワークを活用したチームビルディングにより、外部資金（文化庁「大学における文化芸術推進事業」）に申請、補助金獲得
・2018-2020年度: 学芸員リカレント教育プログラム
・2022年度～: プラス・ミュージアム・プログラム

→北大にリカレント教育を導入